

第 章

県取組方向と具体的な取組

第 章 県の取組方向と具体的な取組

県行政は、多様な主体による文化芸術活動に対し、支援を行う立場にありますが、ここでは、第 章に掲げた文化芸術振興を進める 4 つの基本方向に沿って、県の支援の方向性を記載します。

1 県の取組方向

(現状と課題)

「こころの豊かさ」を重視する価値観へと向かう大きな変化の潮流の中にあり、人びとの価値観は、一人ひとりの生き方、癒しや心の充実感といったことや、歴史・伝統、自然、文化芸術を重視する方向に変化してきています。

このため、こうした社会変化やニーズの変化をふまえ、県が果たすべき役割等を明確にしたうえで、県民が芸術や文化にふれ親しむことで、感性を磨くことができる環境づくりをさらに進めていくことが求められています。

また、長年にわたって保存・継承されてきた文化財や風習などを、県民のみなさん自らが、地域の誇りとして大切だと思っていただくための支援や取組も必要となっています。

さらに、多様な主体による文化芸術活動の活発な展開を促進するための支援を行っていくことも重要となっています。

(2010年の社会としてめざす姿)

県民の皆さん誰もが、多様な文化芸術を享受でき、文化芸術活動に参画・参加しているとともに、地域の歴史や文化に愛着を感じ、守り伝えていこうとする意識が高まっていることをめざします。

(取組の4つの基本方向)

三重の文化芸術振興をはかっていくためには、第 章 1 - (2)にあるように4つの方向に沿って施策を組み立てていくことが重要となります。

こうしたことから、

文化芸術の裾野の拡大と頂点の伸長(広げ、高める)

歴史的資産等の発掘、保存、継承、活用(守り、伝える)

文化芸術を通じた他地域、他分野との連携・交流と発信(つながる)

文化芸術活動支援のための体制整備(支える):体制整備に向けての県の働きかけ
上記の4つの方向を柱とし、県として、次のように取り組めます。

県民の皆さん誰もが、多様な文化芸術にふれ親しみ、文化芸術活動に参画・参加できるとともに、それぞれの活動の文化芸術性を自ら高めていくことができる環境づく

りを推進するため、さまざまな文化芸術活動への支援、顕彰制度の運用や質の高い文化芸術の発表の場づくりを行います。

また、歴史的・文化的資産等の保存・継承・活用をはかるため、国・県の指定文化財としての指定や、地域住民や関係機関との連携による世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保存・活用に取り組むとともに、「三重県史」の編さんを進めます。史跡や埋蔵文化財については、県民の貴重な資産としての保存と学校教育や生涯学習を通じた地域の歴史学習での活用、国史跡齋宮跡の史跡整備や齋宮歴史博物館等を通じた地域における歴史学習の場の提供に取り組みます。

さらに、文化芸術にかかる人材や地域資源等の情報の収集、整理、集積、活用に向けた取組や他地域、他分野との連携・交流をはかるとともに、拠点施設である三重県総合文化センター機能の充実に努めます。

(県の取組を実現するために考慮すべき事項)

県の取組を実現するために、多様な主体に次のようなことを期待します。

- 個人、団体等にあつては、主体的に文化芸術の振興や文化財等の保存・継承等に取り組まれることに期待します。
- 企業にあつては、企業市民としての貢献活動の一環として、文化芸術の振興に主体的に参画されることを期待します。
- 住民に身近な市町においては、地域に密着した文化芸術の振興や文化財等の保存・継承等の取組を推進されることに期待します。

一方、余暇時間、所得の変動など社会・経済情勢の変化や個人の価値観の多様化に伴い、文化芸術に関するニーズが変化するとといった外部要因の影響が考えられます。

(目標項目)

上記のめざす姿の達成に向けて、次のとおり目標項目を設定します。

(主指標)

音楽、美術などのさまざまな芸術や文化と直接ふれ親しめる機会が多いことに対する満足度	目標値	19.0% (2010年度)
	現状値	17.9% (2006年度)

【主目標項目の説明】

一万人アンケートにおいて、「音楽、美術などのさまざまな芸術や文化と直接ふれ親しめる機会が多いこと」に対して、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合（政策部企画室「一万人アンケート」）

(副指標)

三重県総合文化センター利用者数	目標値	650,000人以上 (2010年度)
	現状値	666,002人 (2006年度)
活かそう地域文化財提案事業参加者数	目標値	15,000人 (2010年度)
	現状値	9,516人 (2006年度)
文化芸術情報アクセス件数	目標値	18,800件/月 (2010年度)
	現状値	16,749件/月 (2005年度)

【県の取組目標項目の説明】

- 県文化会館、県生涯学習センター、県男女共同参画センターの利用者数の合計人数（生活部文化振興室調べ）
- 「活かそう地域文化財提案事業」で開始された文化財活用行事への参加者数（教育委員会文化財保護室調べ）
- 文化振興室が管理運営する、インターネットのホームページ「三重の文化」への月平均アクセス件数（生活部文化振興室調べ）

2 県の具体的な取組

(1) 文化芸術の裾野の拡大と頂点の伸長（広げ、高める）

県民が多様な文化芸術にふれ親しみ、文化芸術活動に参画・参加できるとともにそれぞれの文化芸術活動を高めていけるよう、さまざまな文化芸術活動への支援、優れた文化芸術にふれる機会や発表の場の提供、顕彰制度の運用、新しい分野での活動支援などにより、文化芸術の裾野の拡大と頂点の伸長をはかります。

（10年の成果と今後の課題）

三重県総合文化センターにおける優れた作品の鑑賞の機会の提供をはじめとして、さまざまな鑑賞機会を提供してきました。

また、発表の機会として、絵画などの展覧会である「県展」、舞台等を使った芸術発表の場である「県民文化祭」、「音楽コンクール」などを実施しており、出展・演奏者などにとっては、技術向上のための目標となるとともに、鑑賞者にとっては、芸術にふれる機会となっています。

さらに、高い目標として自己研鑽を積む目標にもなるよう、顕彰制度として「三重県文化賞」を設けています。平成12年度からは、制度の統合を行い、文化大賞・文化功労賞・文化奨励賞・文化新人賞の4部門にしました。

三重県総合文化センターの開館、国民文化祭を契機とした文化芸術活動の活発化など、10年を振り返ってみると、文化芸術の裾野の拡大と頂点の伸長は概ね順調に進んでいると言えます。

しかし、詳細部分については、新たな取組を必要とするものもあります。

県展については、県民の皆さんの認知度も上がり、一定の定着を見たところですが、近年、芸術分野の多様化やニーズの変化に著しいものがあり、こうした変化に適切に対応していくことが求められています。

また、発表の場をより身近で魅力的なものとしていくためには、事業組立の刷新をはかるなどの工夫も不可欠です。

さらに、子どもたちの文化芸術活動に対しては、今後も引き続き、支援を行っていくことが必要です。

（具体的な取組）

さまざまな文化芸術活動への支援

- ・ 県民の皆さんがさまざまな文化芸術活動に参画・参加できる環境づくりに向け、県内の文化芸術団体等が行う事業に助成を行います。

主な事業

創造活動サポート事業

- ・ 芸術文化、生活文化など幅広い県民の文化芸術活動に助成を行います。

三重の文化芸術にふれる機会の提供

- ・ 県施設等におけるパブリックスペースを活用して、優れた県民の文化芸術活動の成果を身近にふれ親しむことができる場づくりを進めます。

主な事業

パブリックスペース活用事業

- ・ 県庁舎、病院等の県施設等を活用して、県内の芸術家、作家等に作品の展示スペースを提供します。

県民の優れた文化芸術活動の発表の機会の提供

- ・ 県民の皆さんの文化芸術活動の成果の発展、継承に向けて、「芸術性の高い舞台芸術の発表」、「優れた生活文化の発表」、「県展入選作品の展示」などを一体的に「みえ文化芸術祭（仮称）」として開催します。

主な事業

「みえ文化芸術祭（仮称）」の開催

- ・ 平成19年度から、県の文化芸術の拠点施設である三重県総合文化センター（主会場）において、新たな取組も加え、「みえ文化芸術祭（仮称）」を開催し、より魅力的な発表の場を多様な世代との協働により提供していきます。

文化芸術にかかる顕彰制度の運用、優れた文化芸術にふれる機会の提供

- ・ 県民のみなさんがそれぞれの文化芸術活動を高めていくうえで目標となるよう、顕彰を行います。
- ・ 三重県総合文化センターにおいて、芸術性の高い公演を実施し、県民の皆さんに優れた文化芸術にふれる機会を提供します。

主な事業

県展の実施

- ・ 県民のみなさん、三重県出身の方々の文化芸術作品の審査を行い、入選作品を三重県総合センターにおいて展示します。

三重県文化賞

- ・ 県の文化芸術の振興に貢献し、その活動および功績が著しく優れた方や団体を表彰します。

三重県文化会館事業

- ・ 三重県文化会館において、海外からの招聘公演を含め、オペラ、バレエ、オーケストラなどの芸術性の高い公演を行います。

（目標項目）

県展出品数	目標値	1,110点 (2010年度)
	現状値	1,000点 (2006年度)
文化芸術活動への助成件数	目標値	30件 (2010年度)
	現状値	33件 (2006年度)
鑑賞型事業入場率	目標値	80% (2010年度)
	現状値	84% (2006年度)
三重県文化賞推薦件数	目標値	65件 (2010年度)
	現状値	52件 (2006年度)
みえ文化芸術祭（仮称）総合フェスティバル参加満足度	目標値	80% (2010年度)
	現状値	—

【目標項目説明】

（県展出品数）

- 美術に対する理解を深めるとともに、県民の皆さんの創作意欲を高め、美術水準の向上をはかることを目的に開催している「県展」への出品数（生活部文化振興室調べ）

（文化芸術活動への助成件数）

- 県民の皆さんの多様な文化活動を支援するために県が交付した「県文化振興基金活用事業補助金」の件数（生活部文化振興室調べ）

（鑑賞型事業入場率）

- 三重県文化会館における鑑賞型事業の入場率（生活部文化振興室調べ）

（三重県文化賞推薦件数）

- 文化芸術分野における著しい功績を称える顕彰制度である三重県文化賞の公募推薦者数（生活部文化振興室調べ）

（みえ文化芸術祭（仮称）総合フェスティバル参加満足度）

- みえ文化芸術祭（仮称）の主要事業である県民文化祭総合フェスティバルの参加満足度（生活部文化振興室調べ）

(2) 歴史的資産等の発掘、保存、継承、活用（守り、伝える）

「三重県史」の編さんや県史編さん事業などを通じて収集した歴史的・文化的価値を有する資料の保存・活用を進めるとともに、歴史的・文化的資産や景観等について国・県の指定文化財としての指定、学校教育や生涯学習を通じた地域の歴史学習での活用をはかるなど、歴史的・文化的資産等の発掘、保存、継承、活用に努めます。

（10年の成果と今後の課題）

県史編さん事業を昭和59年度に始めました。また、県内各地の街道資産を発掘し、歴史や文化を再発見する「みえ歴史街道フェスタ」を平成10年度に実施しました。歴史街道ウォーキング等の事業に多くの県民の皆さん・団体・企業等の参画・参加が進み、歴史街道にかかる人づくり、組織づくりの素地が形成されました。

その後も、街道資産をはじめとする歴史的・文化的資産を生かした地域づくり活動が地域の皆さんと協働で進められています。今後にあっても、学習にはじまり、発掘・保存・継承・活用と、それぞれの役割分担の上、協働による活動の継続が求められます。

（具体的な取組）

三重県史の編さんと資料の保存・活用

- ・ 地域が育んできた歴史や文化を「三重県史」として編さん、刊行するとともに、成果をわかりやすく情報発信します。
- ・ 県史の編さん事業などを通じて、地域の貴重な歴史的・文化的資産に関する情報等の収集・整理を行い、これらの資産が適切に保存・活用される体制を整えます。

主な事業

県史編さん事業

- ・ 「三重県史」の編さん・刊行を進めるとともに、その成果をインターネットを活用するなどしながら、親しみやすい形で広く公開・発信していきます。

歴史文化（公文書）保存事業

- ・ 歴史的・文化的に価値の高い公文書等を選別し、これらの保存を進めます。

国・県の指定文化財の指定、保護・管理、活用

- ・ 県内の重要な文化財を調査研究し、国・県の指定文化財に指定することにより保存・継承をはかるとともに、学校教育や生涯学習における地域学習の資料として活用されるように公開に努めるなど、積極的に情報発信を行います。
- ・ 文化財の保護状況について巡視活動を行うとともに、市町および管理者が行う指定文化財などの保護・管理について支援を行います。
- ・ 地域の貴重な文化財の修復と活用により、魅力的な地域づくりをめざす、自主的な地域活動を支援します。

- ③ 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保存・継承
- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が良好に保存管理されていくよう、文化庁、奈良・和歌山両県および関係市町と連携した取組を行います。
 - また、保存管理計画が円滑に機能するよう関係市町への助言・支援を行うとともに文化的景観としての世界遺産の普及・啓発事業を推進します。
- ④ 国史跡齋宮跡の調査、保護
- 国史跡齋宮跡の学術的な発掘調査の計画的・継続的な実施による史跡の解明、齋宮歴史博物館を中心とした展示・普及体験事業の推進を通じて、その保護と地域文化振興の向上に努めるとともに、史跡がサイトミュージアム（史跡博物館）として地域学習に活用されるよう、史跡東部を中心とした整備を進めます。
- ⑤ 埋蔵文化財の保護、調査研究成果の活用
- 三重県埋蔵文化財センターにおいて、技術研修や文化財保護講座を開催することにより埋蔵文化財保護に向けた体制を充実します。
 - 市町との協働により、埋蔵文化財の適切な保存に努めるとともに、埋蔵文化財や文献等の調査研究を実施し、その成果の公開・発信を通じて、学校での地域学習などへの活用をはかります。

（目標項目）

活かそう地域文化財提案事業参加者数	目標値	15,000件 (2010年度)
	現状値	9,516件 (2006年度)
「三重県史」の刊行割合	目標値	81% (2010年度)
	現状値	61% (2006年度)
県史編さん資料充実度	目標値	96% (2010年度)
	現状値	88% (2006年度)
調査研究成果の活用者数	目標値	13,500人 (2010年度)
	現状値	126,544人 (2006年度)

【目標項目説明】

（活かそう地域文化財提案事業参加者数）

- ・「活かそう地域文化財提案事業」で開始された文化財活用行事への参加者数（教育委員会文化財保護室調べ）

（「三重県史」の刊行割合）

- ・「三重県史」全 30 巻 36 冊の計画における編集完了冊数の割合（生活部文化振興室調べ）

（県史編さん資料充実度）

- ・県史の編さんに必要な資料（最終 150,000 点）に対する収集割合（生活部文化振興室調べ）

（調査研究成果の活用者数）

- ・齋宮歴史博物館、県埋蔵文化財センターが行う調査研究成果に基づく、展覧会、現地説明会、公開講座、体験講座への参加者数と齋宮歴史博物館入館者数およびいつきのみや歴史体験館利用者数合計（教育委員会文化財保護室調べ）

(3) 文化芸術を通じた他地域、他分野との連携・交流と発信（つながる）

文化ボランティア等によるコーディネート機能の拡充により、地域間の連携・交流を促進するとともに、歴史街道・まちかど博物館等を生かした文化のまちづくり支援、国内外との交流による発信、文化芸術にかかる人材や地域資源等の情報の収集、整理、集積、活用に向けた取組など、文化芸術を通じた他地域、他分野との連携・交流と発信を進めます。

（10年の成果と今後の課題）

平成6年には、世界祝祭博覧会および第9回国民文化祭が開催されました。事業を通じて、さまざまな交流と発信が進められました。全国や世界との交流を通じ、新たな文化創造の契機となり、そのエネルギーは、その後の各種事業へと引き継がれました。

平成14年度からは、三重県・岐阜県・福井県・滋賀県の4県で構成する「日本まんなか共和国」において、文化交流事業を実施しています。

また、世界に誇りうる松尾芭蕉の生誕360年を契機として、平成16年5月16日から11月21日までの190日間、伊賀や三重県のあらゆる魅力を360度発信する事業を実施しました。事業参画者数約7,000名、参加者数約167,000名を数えました。官民協働組織である「2004伊賀びと委員会」が中心となることで、事業の計画段階から実施段階に至るまで、多様な主体の協働により事業を進めることができました。多くの手づくり事業の展開を通して、地域や世代を超えたさまざまなネットワークが構築されました。

ニーズ・シーズが多様化する中であって、多様な分野にまたがる広域的な連携・交流・発信は、今後更に期待されるところです。

（具体的な取組）

人材、歴史的・文化的資産に関する情報の蓄積と活用

- ・ 文化芸術に関する人材・団体等の情報や、地域の歴史的・文化的資産に関する情報の収集・整理を行います。
- ・ 県民の皆さんが蓄積された情報を活用しやすいよう、ターゲットを明確にして情報の再整理を行います。身近な文化施設を拠点として、さまざまな主体的な活動が展開されるよう支援します。

- 主な事業 -

みえの文化蔵（「人・モノ」集積・発信・活用）事業

（文化芸術にかかる人材データ集積事業）

- ・ 文化芸術に関する人材や団体などの情報の収集・蓄積を進めるとともに、県民の皆さんが活発に活動できるよう、人材育成・支援に努めます。

みえの文化蔵(「人・モノ」集積・発信・活用)事業

(歴史的・文化的資産データ集積事業)

- ・ 地域の貴重な歴史的・文化的資産の現況把握を進めるとともに、文献に関する情報等を収集、整理し、県民が発信・活用できるよう努めます。

情報発信と地域の歴史的・文化的資産の活用促進

- ・ 三重の芸術文化や歴史文化に関する情報を、インターネットやGIS(地理情報システム)を活用して魅力的に情報発信します。
- ・ 歴史街道やまちかど博物館などの、地域の歴史的・文化的資産を活用した地域住民の主体的なまちづくり活動を支援します。

主な事業

歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業

- ・ GIS(地理情報システム)を活用した「歴史街道GIS」を作成し、ホームページ上で、航空写真、古地図、ハイビジョン動画、高精細画像などで街道周辺のさまざまな情報を紹介します。

文化総合情報提供事業

- ・ 県内の文化芸術に関する情報をホームページ「三重の文化」やメールマガジンにより総合的に提供します。

文化芸術活動の地域連携・交流の促進

- ・ 子どもたちのために本物の文化芸術にふれ親しむ機会の提供を行うなど、子どもの文化芸術活動を支援します。
- ・ 地域の文化芸術活動の連携・交流を促進するため、文化ボランティア等による文化芸術活動のコーディネート機能の充実をはかります。

主な事業

みえの文化蔵(「人・モノ」集積・発信・活用)事業

(集積データのフロー化に向けた手法開発事業)

- ・ 多様な主体と連携し、文化芸術を体験する文化芸術連携体験プログラムの開発等を行います。

国内外との交流による発信

- ・ 県境を越え、誇るべき互いの歴史的・文化的資産を再認識し、情報の共有化をはかるため、文化芸術の広域連携事業を実施します。
- ・ 国際的な文化芸術に関するフォーラムの開催等により、三重の文化を広く情報発信します。

- 主な事業

日本まんなか共和国文化首都連携事業

- ・ 岐阜県、福井県、滋賀県と三重県で構成する日本まんなか共和国の文化首都事業を通じて文化芸術の連携・交流をはかります。

⑤ 俳句のくに三重の発信

- ・ 言葉による表現を大切にしてきた三重の文化を発信し、継承していくために、俳句の募集や俳句にまつわる講座の実施、学校への俳句インストラクターの派遣等を行います。

—主な事業—

全国俳句募集事業

- ・ 全国、海外から俳句募集を行うとともに、「俳句のくに三重」を広く情報発信します。

（目標項目）

文化芸術情報アクセス件数	目標値	18,800件/月 (2010年度)
	現状値	16,749件/月 (2006年度)
文化ボランティア等が行った指導、実演の受講者・受講生徒数	目標値	6,900人 (2010年度)
	現状値	5,954人 (2006年度)
歴史街道GIS作成数	目標値	5街道 (2010年度)
	現状値	1街道 (2006年度)
文化広域連携事業参画数	目標値	160人 (2010年度)
	現状値	123人 (2006年度)

【目標項目説明】

（文化芸術情報アクセス件数）

- ・ 文化振興室が管理運営する、インターネットのホームページ「三重の文化」への月平均アクセス件数（生活部文化振興室調べ）

（文化ボランティア等が行った指導、実演の受講者・受講生徒数）

- ・ 地域コーディネーター（地域文化推進員）の活動を通じて行われた、文化ボランティアおよび俳句インストラクターによる指導・実演の受講者・受講生徒数（生活部文化振興室調べ）

(歴史街道 GIS 作成数)

- ・作成した GIS の街道数(累計)(生活部文化振興室調べ)

(文化広域連携事業参画数)

- ・文化広域連携事業(日本まんなか共和国文化首都連携事業)に参画した県民の数(生活部文化振興室調べ)

(4) 文化芸術活動支援のための体制整備（支える）

文化芸術の拠点施設である三重県総合文化センター等の機能の充実、文化芸術活動の支援を行う中核的文化団体の育成・連携に努めるとともに、企業等の社会的貢献の促進をはかるなど、アーツマネージメントの視点に立った多様な主体による文化芸術活動支援のための体制整備を進めます。

(10年の成果と今後の課題)

平成6年10月に開催した「国民文化祭・みえ94」にあわせて、三重県総合文化センターを開設しました。平成16年10月からは、県施設第1号として指定管理者制度を導入しました。平成19年4月からは、指定管理第2期に入ります。

また、「国民文化祭・みえ94」を契機として、文化芸術団体の連携が深まり、そうした中で、中核的な役割を果たす団体が組織され、平成17年には法人格をもった団体となりました。

今後にあっては、指定管理者制度による三重県総合文化センターの機能、中核的文化芸術団体の専門性が強化され、三重県における文化芸術振興の支柱となることが期待されます。また、美術館や博物館などの文化関連施設との連携により、文化芸術の出発点となる生涯学習支援や、多様な主体による文化芸術活動への総合的な支援が望まれます。

(具体的な取組)

三重県総合文化センター等の機能の充実と拠点化

- ・ 指定管理者制度により運営される三重県総合文化センターが、
県民の皆さんがさまざまな文化芸術にふれる機会の提供
将来の文化芸術を担う人材の育成
市町文化施設との連携強化、ノウハウの提供、市町文化施設担当職員のレベルアップ支援
多様な文化芸術の主体とのネットワークの構築
アウトリーチ活動の充実
などにより、県の文化芸術の拠点施設となるよう、機能の充実をはかり、機能を十分に発揮します。

主な事業

三重県文化会館事業

- ・ 三重県文化会館において、三重県の文化芸術の特性を生かしたさまざまな事業の実施や、文化芸術の人づくりなどを行います。

アウトリーチ活動推進事業

- ・ 地域における多様な文化芸術の主体と連携し、県内のホール、学校等に出向いて文化芸術にふれる機会を提供します。

② 中核的文化団体の育成・連携

- 県民の皆さんの文化芸術活動の支援を行う中核的文化団体の育成・連携に努めます。

また、こうした中核的文化団体が、指定管理者と連携して、三重県総合文化センターの機能の充実をはかることができるよう支援を行います。

③ 企業等の社会的貢献の促進・協働

- 企業等が、社会貢献活動の一環として文化芸術の振興に主体的に参画されるよう働きかけを行い、協働して個人・団体の文化芸術活動を支援します。

(目標項目)

三重県総合文化センター利用者数	目標値	650,000人以上 (2010年度)
	現状値	666,002人 (2006年度)
三重県総合文化センター施設利用率	目標値	71.0%以上 (2010年度)
	現状値	73.7% (2006年度)
三重県総合文化センター広報活動数	目標値	45件 (2010年度)
	現状値	55件 (2006年度)
三重県総合文化センター舞台関連主設備修繕進捗率	目標値	55% (2010年度)
	現状値	23% (2006年度)

【目標項目説明】

(三重県総合文化センター利用者数)

- 県文化会館、県生涯学習センター、県男女共同参画センターの利用者数の合計人数（生活部文化振興室調べ）

(三重県総合文化センター施設利用率)

- 県総合文化センターのホール、会議室、研修室の開館日数に対する利用日数の割合（生活部文化振興室調べ）

(三重県総合文化センター広報活動数)

- 県総合文化センター機関紙（Mニュース）の発行等広報手段を使って行った件数（生活部文化振興室調べ）

(三重県総合文化センター舞台関連主設備修繕進捗率)

- 県総合文化センターにおける照明や床機構等の各種舞台設備の修繕率（生活部文化振興室調べ）

3 重点的に取り組むプロジェクト

6頁に示した3つの資産

ヒューマンウエア

ハードウエア

ソフトウェア

の視点から、プロジェクトに取り組みます。

(4年後のめざす姿)

県民のみなさんが、地域の視点、三重県の独自性の視点、また、知的価値・文化的価値の視点で、芸術や文化的資産・景観などを発掘し、育み、守り、生かすことで、三重の地域文化を次世代に伝えているようになっていくことをめざします。

また、市町および中核的文化団体等が下記のような県と同様の働きかけや支援を、県民の皆さんおよび各種団体に対して行っていることをめざします。

(手法)

三重を元気にする「文化力」を育み、発揮する地域社会をめざし、社会的ネットワークを中心に知的社会資本の集積を進め、その集積を活用・発信する知的情報拠点の整備を進めます。

(現状・課題)

重複・近接領域において類似事業が実施されていますが、対象者・対象物が同一である場合も少なからずあります。効率性、効果の面で不十分であることは否めません。

統一的な対応がなされていないことから、県民の皆さんに誤解が生じ、力を発揮していただく妨げとなっています。

ニーズの多様化により、多面的な対応が求められるようになりました。しかし、活用・発信の面では、資産のストックを継続的にフローする体制ができていません。また、三重県独自の Only One 文化の創造・発展に期待されるのですが、うまくつながっていません。

(連携の必要性)

それぞれの立場による目的、価値観、多様性、個性を尊重しながら、文化芸術分野を中心として、学校教育・生涯学習分野、景観分野、観光交流分野等の重複・近接領域や県民と連携・協働した一体的な事業展開が望まれるところですが、十分な連携体制が整っていない現状にあります。

こうした背景を受けて、重複・近接領域や県民の皆さんとの連携・協働により、知的情報拠点として、人材データや地域資産データの集積と活用を行う“みえの文化蔵” (“人の蔵”・“モノの蔵”・“活動・活用・発信の蔵”)づくりを行います。

(1) 人の蔵(ストック形成)

文化芸術や歴史に関する人材や団体などに関する情報を分野別、段階別に収集、蓄積(「人」データベース)を進めるとともに、活発な活動が行えるよう人材育成・

支援を行います。

具体的な取組内容

- 文化芸術活動団体（者）の分野別、段階別の実態調査
- ニーズおよびシーズの実態調査
- データベース化
- 段階別人材育成
- サポーターの育成、登録
- コーディネータ等への登録

(2) モノの蔵（ストック形成）

失われつつある地域の貴重な歴史的・文化的資産の発掘、現況調査、保存を進め、情報を蓄積（「モノ」データベース）し、効果的に発信、活用されるよう、モノにかかわる人材の育成・支援に努めます。

また、これらの資産の緊急対応体制の整備、保存などに向けた方針の検討を行います。

具体的な取組内容

- 歴史的・文化的資産等の発掘、現況確認調査の実施、保存
- 文献等のデータ調査
- データベース化（デジタルアーカイブ化）
- 調査協力体制の整備
- 緊急対応体制の整備
- 保存・活用に向けた方針検討

(3) 活動・活用・発信の蔵（ストックのフロー化）

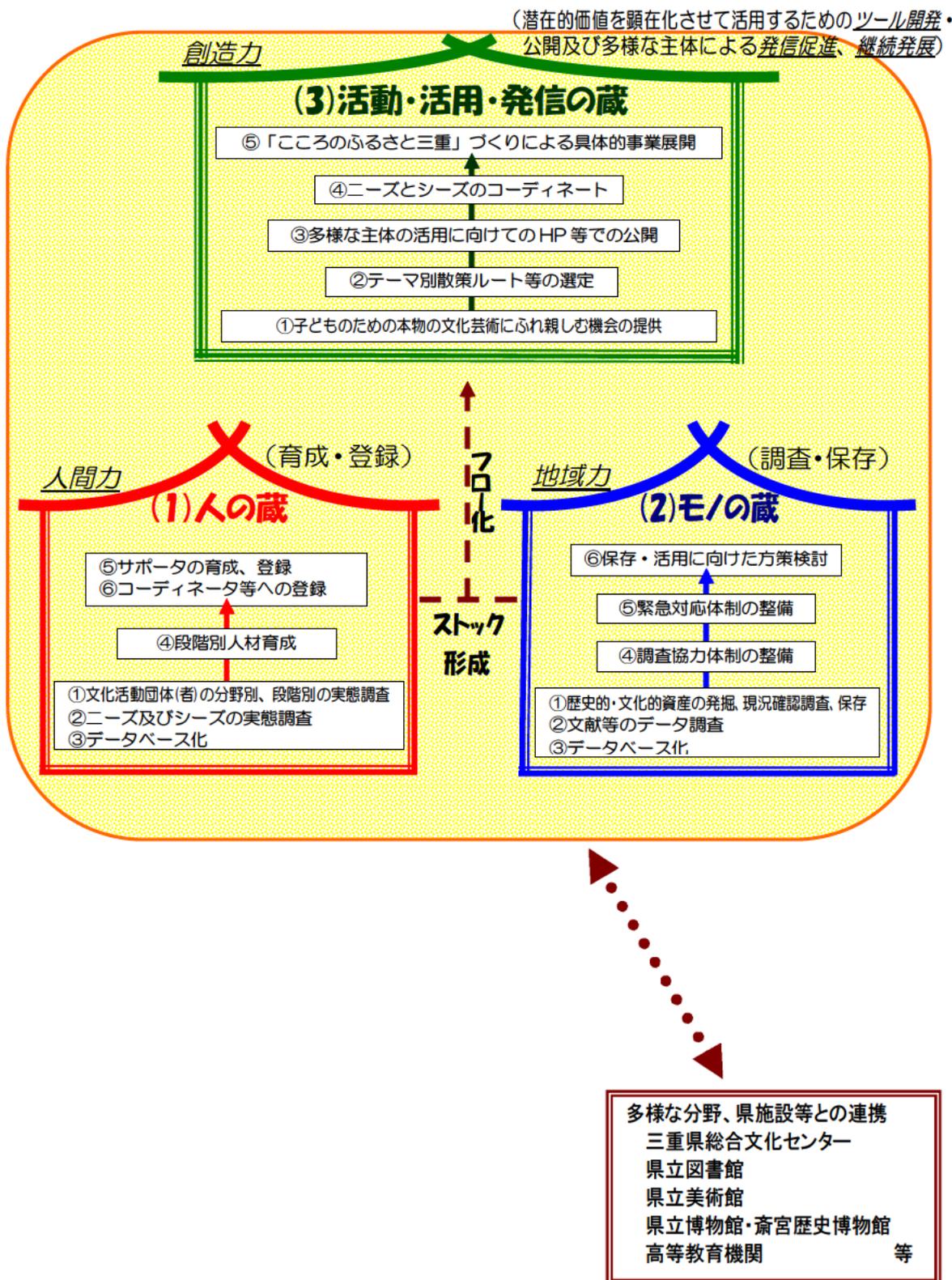
文化芸術や歴史などに関して蓄積された人材や資産の情報を、多彩な文化芸術が時空を超えて織りなす一連のみえの文化として、県民の皆さんが継続して効果的に活用・発信していただくために、コーディネート機能の充実をはかるなどの支援を行います。

具体的な取組内容

- 子どもたちのための本物の文化芸術にふれ親しむ機会の提供
- テーマ別散策ルート等の選定
- 多様な主体の活用に向けてのネット上等での公開
- ニーズとシーズのコーディネート
- 「こころのふるさと三重」づくりでの事業実施

さまざまな文化芸術分野において、フロー化する実践活動を通して、人やモノのストック形成にフィードバックさせることで、3つの蔵のそれぞれの充実をはかっていきます。

“みえの文化蔵”



重複・近接する領域と連携する際には、次のようなことを重視します。

(学校教育・生涯学習分野)

- ・多様な人材の育成と活動促進(教育分野の芸術教育者への指導協力依頼)
- ・送り手としての団塊の世代育成
- ・受け手としての小・中・高生
- ・社会的課題(思いやる力、対話する力、想像・創造する力)解決の手段としての文化芸術による学校支援
- ・指導者の分野重複人材の確認・整理
- ・それぞれの個性に応じたステップアップ支援
- ・需要情報の確認によるミスマッチの解消

(歴史的・文化的景観分野)

- ・地域の個性としての景観に注目
- ・地域の外からの視点による価値評価
- ・歴史的・文化的景観の価値についての認識の普及

(観光・交流、まちづくり分野)

- ・使えるアーカイブの整備
- ・独自文化資産の魅力的な発信
- ・団塊世代を対象とした商品開発

(各種施設：総合文化センター・図書館・美術館・博物館等)

- ・人・モノと出会う場、つながる場、知の拠点としての位置づけ
- ・直接的な事業に加え、県民のみなさんの活動を支援する機能の発揮
- ・アーカイブ拠点としての可能性
- ・施設内だけでなく、デジタルデータの集積、拠点化
- ・専門家のもつ機能の活用と融合

第 章

三重の文化芸術振興方策における目標設定と成果の検証

1 「三重の文化芸術振興方策」数値目標一覧

取組方向	目標項目	項目概要	現状値 (2006年)	目標値 (2010年)	数値の出典
施策目標	音楽、美術などのさまざまな芸術や文化と直接ふれ親しむ機会が多いことに対する満足度	県民一万人アンケートにおいて、「音楽、美術などのさまざまな芸術や文化と直接ふれ親しめる機会が多いこと」に対して、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合	17.9%	19.0%	政策部企画室調べ
文化芸術の裾野の拡大と頂点の伸長 (広げ、高める)	県展出品数	美術に対する理解を深めるとともに、県民の皆さんの創作意欲を高め、美術水準の向上をはかることを目的に開催している「県展」への出品数	1,000点	1,110点	生活部文化振興室調べ
	文化芸術活動への助成件数	県民の皆さんの多様な文化活動を支援するために県が交付した「県文化振興基金活用事業補助金」の件数	33件	30件	生活部文化振興室調べ
	三重県文化会館鑑賞型事業入場率	三重県文化会館における鑑賞型事業の入場率	84%	80%	生活部文化振興室調べ
	三重県文化賞推薦件数	文化芸術分野における著しい功績を称える顕彰制度である三重県文化賞の公募推薦数	52件	65件	生活部文化振興室調べ
	みえ文化芸術祭(仮称)総合フェスティバル参加満足度	みえ文化芸術祭(仮称)の主要事業である総合フェスティバルの参加満足度	—	80%	生活部文化振興室調べ
歴史的資産等の発掘・保存・継承・活用 (守り、伝える)	活かそう地域文化財提案事業参加者数	「活かそう地域文化財提案事業」で開始された文化財活用行事への参加者数	9,516人	15,000人	教育委員会文化財保護室調べ
	「三重県史」の刊行割合	「三重県史」全30巻36冊の計画における編集完了冊数の割合	61%	81%	生活部文化振興室調べ
	県史編さん資料充実度	県史編さんに必要な資料(最終150,000点)に対する収集割合	88%	96%	生活部文化振興室調べ
	調査研究成果の活用者数	斎宮歴史博物館、県埋蔵文化財センターが行う調査研究成果に基づく、展覧会、現地説明会、公開講座、体験講座への参加者数と斎宮歴史博物館入館者数およびいつきのみや歴史体験館利用者数合計	126,544人	13,500人	教育委員会文化財保護室調べ
文化芸術を通じた他地域、他分野との連携・交流と発信 (つながる)	文化芸術情報アクセス件数	文化振興室が管理運営する、インターネットのホームページ「三重の文化」への月平均アクセス件数	16,749件/月	18,800件/月	生活部文化振興室調べ
	文化ボランティア等が行った指導、実演の受講者・受講生徒数	地域コーディネーター(地域文化推進員)の活動を通じて行われた、文化ボランティアおよび俳句インストラクターによる指導・実演の受講者・受講生徒数	5,954人	6,900人	生活部文化振興室調べ
	歴史街道GIS作成数	作成したGISの街道数(累計)	1街道	5街道	生活部文化振興室調べ
	文化広域連携事業参画数	文化広域連携事業(日本まんなか共和国文化首都連携事業)に参画した県民の数	123人	160人	生活部文化振興室調べ

取組方向	目標項目	項目概要	現状値 (2006年)	目標値 (2010年)	数値の出典
文化芸術活動支援 のための体制整備 (支える)	三重県総合文化センター利用者数	県文化会館、県生涯学習センター、県男女共同参画センターの利用者数の合計人数	666,002人	650,000人以上	生活部文化振興室調べ
	三重県総合文化センター施設利用率	県総合文化センターのホール、会議室、研修室の開館日数に対する利用日数の割合	73.7%	71.0%以上	生活部文化振興室調べ
	三重県総合文化センター広報活動数	三重県総合文化センター機関紙(Mニュース)の発行等広報手段を使って行った件数	55件	45件	生活部文化振興室調べ
	三重県総合文化センター舞台関連主設備修繕進捗率	三重県総合文化センターにおける照明や床機構等の各種舞台設備の修繕率	23%	55%	生活部文化振興室調べ

2 県民の視点による県事業の成果の検証

三重県においては、みえ政策評価システムに基づき、自己評価および成果の確認と検証を行っています。

しかし、価値観が多様化する中であって、より効果的な事業展開をはかるには、県外部からの視点による定期的な評価、検証が求められています。

こうしたことから、県の行う事業については、本方策の中間時点、最終時点等において、有識者・文化芸術活動関係者・県民の皆さん等の意見を聴取し、その後の事業展開に反映するよう努めます。